

平成31年度事業評価結果報告書

(平成30年度実施事業)

令和2年3月

かつらぎ町行財政対策協議会

目次

1.かつらぎ町行財政対策協議会	1
2.かつらぎ町行財政対策協議会委員名簿	1
3.事業評価の方法	2
4.事業評価会議の開催日時	2
5.評価の結果	3～5

1. かつらぎ町行財政対策協議会

かつらぎ町行財政対策協議会は、町長の附属機関として町長の諮問に応じ、行財政運営の改善対策に関する基本事項の審議、町の施策・事業等の評価検証を行うために設置されている。

本年度については、本町が実施している事業の中から、必要性・有効性・効率性や住民ニーズの変化に照らして検証が必要と思われる事業を選定し、そのあり方について外部の視点から評価・検証を行った。

2. かつらぎ町行財政対策協議会委員名簿

かつらぎ町行財政対策協議会は、下記の10名で構成されている。

【かつらぎ町行財政対策協議会委員】

任期：令和2年6月25日まで

(委員は、五十音順 敬称略)

役職	氏名	
会長	中前 光雄	自治区長会 会長
委員	東 智珠子	女性会議 前会長
委員	大宅 充	女性会議 前副会長
委員	大家 敏史	日の丸観光バス株式会社 代表取締役
委員	奥田 裕規	かつらぎ町青年団 団長
委員	楠本 真人	かつらぎ町農業担い手交流会 代表
委員	崎 純郎	和歌山県農林大学校 校長
委員	谷口 友実子	紀陽銀行橋本連合店 妙寺支店長
委員	中谷 保	かつらぎ町商工会 会長
委員	西村 公孝	紀北川上農業協同組合かつらぎ支店 支店長

3.事業評価の方法

担当課からの説明及び提出された資料にもとづき、事業の個別評価として「必要性」「有効性」「効率性」を各視点から検証し、「大いにある」「概ねある」「あまりない」「ない」の4段階で評価を行い、今後の事業の方向性として「拡充」「現状維持」「一部改善」「縮小」「休止・廃止」の5段階で評価を行った。

事業の最終評価は、『評価判定（今後の方向性）』で、最も多かった評価を本協議会における評価と位置付け、『意見集約過程での主な提案・意見』を踏まえたうえで、『評価に関するコメント』を総括とし、協議会としての意見としている。

- ◎ 対象事業：平成30年度決算主要施策実施事業等
- ◎ 評価事業数：2事業（内、地方創生関連交付金事業 1事業）

< 評価手順 >

- ①所管部門による事業説明（5～15分）
- ②質疑応答・意見交換、評価シートへの記入（15～30分）
- ③協議会としての総合評価（30分）

4.事業評価会議の開催日時

	日時	事業評価	場所
第1回	令和2年3月9日(月) 19:00～21:00	・高野山麓ツーリズムビューロー（DMO） 推進事業 ・コミュニティバス運行事業	かつらぎ町役場 2階B会議室

【その他】

日時	内容	場所
令和2年3月26日(木)	町長への答申	町長室

5.評価の結果

平成31年度は、平成30年度に実施した主要施策105事業のうち、町が選出した2事業について事業評価を実施したところであり、事業の方向性についての評価は、「一部改善」が2事業となった。

町の財政状況がさらに厳しいものになっていくと予想される中、費用対効果についての検証と併せて、『PDCAサイクル』の強化を図り、事業の趣旨、住民ニーズに合致した事業となるよう努められたい。

また、この報告書を第4次かつらぎ町長期総合計画の推進に役立てていただくことを要望する。

【平成31年度かつらぎ町行財政対策協議会 事業評価結果一覧】

(平成30年度実施事業)

事業番号	事業名	委員数	今後の事業の方向性					評価判定
			拡充	現状維持	一部改善	縮小	休止 廃止	
1	高野山麓ツーリズムビューロー(DMO)推進事業	8		3	5			一部改善
2	コミュニティバス運行事業	8	1	1	6			一部改善

平成31年度 行財政対策協議会事業評価結果(平成30年度実施事業)

事業番号	高野山麓ツーリズムビューロー(DMO)推進事業	産業観光課
------	-------------------------	-------

●個別評価の判定

評価人数 8名

評価項目	大いにある	概ねある	あまりない	ない
①必要性	3名	4名	1名	名
②有効性	2名	4名	2名	名
③効率性	1名	3名	4名	名

●評価判定(今後の方向性)

	拡充	現状維持	一部改善	縮小	休止・廃止
	名	3名	5名	名	名
評価に関するコメント	<p>広域で連携して地域の魅力を外部に向けてPRすることにより、多くの観光客を呼び込むという趣旨は理解できますが、現状、集客実績は年間300人程度であり、DMOの収入の9割以上がかつらぎ町や橋本市からの委託費という状況であることから、中身が伴っておらず、取り組みについては抜本的に見直す必要があるものと思われます。民間企業のアイデア・力を借りて、観光客に訴求力があるような、もっと広い視野を持った取り組みを実施していただきたいと考えます。</p>				
意見集約過程での主な提案・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容の一部見直しが必要かと思えます。ニーズ調査の次の段階へのステップアップを要するのではないのでしょうか。 ・理事として参加してくれている企業の意見も聞いて、活動していったほうが良いと思えます。 ・令和2年度はオリンピックイヤーといういい材料もあるが、コロナ問題で成果が出るか心配です。 ・DMOと市町が連携できているのか疑問に思えます。 ・DMOの運営が自治体からの委託に頼りすぎているように感じます。 ・効果的なプロモーション活動がなされているか疑問に思えます。 ・まず町民に歴史・特産品など観光資源の意識や関心を高めることに力を注いでほしいと思えます。 ・PR方法の検討(販売を促進するメッセージを送るなど)をお願いしたいです。 ・各地域へのPR活動(関空、大阪難波の地下商店街でのPR作戦など)、商品の良さを分かってもらい取り組みはとて面白いと思えます。 ・ポスター、チラシ、フルーツ狩りの時期等の情報、事業所の掲載、インターネットを活用したPR等が必要と思えます。特産品や土産ものがあるといいと思えます。 ・観光プロモーション業務等の委託料を支払う意味があるかをDMOに追及してください。 ・目を引くようなPRが必要だと思えます。 ・かつらぎ町の良さを広く伝えていただきたい。 				

平成31年度 行財政対策協議会事業評価結果(平成30年度実施事業)

事業番号	コミュニティバス運行事業	総務課
------	--------------	-----

●個別評価の判定

評価人数 8名

評価項目	大いにある	概ねある	あまりない	ない
①必要性	7名	名	1名	名
②有効性	2名	6名	名	名
③効率性	1名	1名	5名	名

※③効率性については1名が無回答とされました。

●評価判定(今後の方向性)

	拡充	現状維持	一部改善	縮小	休止・廃止
	1名	1名	6名	名	名
評価に関するコメント	<p>利用者数といった数字からはあまり成果は上がっていないようにも見えるが、一方で高齢者一人一人の生活が成立する助けとなっており、そういった観点からは成果が上がっている。町としては赤字運行であるが、一方で高齢者の生活コストを抑制できている。目に見える数字だけで判断できる性質の事業ではないと考えます。 路線バスであり、陸運局の許可を要することから、頻繁にコースを変更するような運行は難しいかとは思いますが、路線バスで成功している事例、例えば十勝バスの取り組み事例等を研究し、より良い取り組みとしてください。 運行コースの改善は必要かと思いますが、住民生活に必要不可欠な事業であると考えます。</p>				
意見集約過程での主な提案・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・数字として上がっている成果だけで有効性の有無を判断できる性質のものではないと思います。 ・効率性はないが、高齢者の生活には必要なものと考えます。 ・コミュニティバス事業だけでは住民の多様なニーズには対応しきれないと思います。多様な交通手段(公共交通空白地の解消、NPO法人等による福祉有償運送、移動販売、スクールバスの空き時間活用、全ての運行コースで通院できるように接続ダイヤを調整、等)による利便性の高い計画が必要かと思います。 ・1日46便、年間361日も運行していることに驚きました。 ・高齢者の交通手段としてはどの程度有効なのでしょう。 ・高齢者向けとして、少人数で乗るような形態や、直接利用できる個人タクシーの様なものが必要だと思います。 ・利用者の減少は利用者の高齢化や人口減少からのものだと思います。 ・病院やスーパー、銀行、郵便局といった生活に密着した場所へ行けるようなコースや便の見直しをするべきだと思います。 ・高齢化に伴い本当に必要なものだと思うのだが、あまりにも大きな赤字となっているため、効率性を高めていく必要があると思います。もっと利用してもらえる方法はないのか、検討するべきと考えます。 ・必要な事業であるので、続けていただきたいと思います。 ・利用者の要望に細かく対応できるように体制を整えていただきたい。 ・観光、福祉、他の公共交通機関へのアクセス等を考慮した運行系統図の見直しが必要と考えます。ただ、ある程度の非効率性は仕方ないものと思われます。 ・ルートの改善は必要と考えます。 				